

クラス	TU102	担当教員	亀谷 和史
テーマ	乳幼児の発達と「保育者の専門性」を深める		
著書・論文 研究課題等	『「知的な育ち」を形成する保育実践』共編著（新読書社）2013年、『現代保育と子育て支援—保育学入門』亀谷和史編著（八千代出版）2008年、「韓国と日本の少子化問題と子育て支援の課題」（『韓国の保育・幼児教育と子育て支援の動向と課題』共著（新読書者）2008年など。		
ゼミナール概要			
キーワード：発達、保育実践、保育者の専門性、幼保一元化（「幼保一体化」）、			
目的、内容、等：			
<p>◎このゼミでは、乳幼児の発達と「保育者の専門性」を深めるゼミです。</p> <p>○まず第1に、このゼミでは、特に、乳幼児期の認知・感情・人格等の発達の学習をします。特に、自我の発達や特定の人への愛着形成（あるいは愛着障害）などを学びます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・誕生からおおよそ、3歳までの発達のプロセスを、感情、認識、自我などに、焦点をあてて、学習していきます。乳児が、どうして「わたし」ってわかるようになるか、を追究します。 ・幼児期は、3歳児・4歳児・5歳児と年齢別に、自我や認識の発達過程、その特徴を理解し、発達の視点から保育実践の課題についても学習します。 ・以上の乳幼児期の発達を踏まえたうえで、「保育者の専門性」とは何か、について研究していきます。 ・保育者は、子どもの発達の理解を踏まえて、保育者としての「保育・教育実践力」とソーシャルワーカー的な知見やカウンセラー的な人間理解も求められます。 <p>*私は、アンリ・ワロンというフランスの発達心理学者(精神医学者でもあった有名な学者)を研究しています。ワロンという人は、ボウルビィーが「愛着」の重要性を指摘する前から、乳幼児期の「情動交流」や「共感」関係の重要性を発達の最初の段階として研究した人です。ゼミでは、ワロンの発達論の学習もします。</p> <p>○第2に、保育・幼児教育の制度改革が、子ども子育て支援全体の改革のなかで行われていきます。公的な保育所の設備や条件が充実していないと、良い保育が行えません。そこで、今、課題となっている「認定こども園」や「幼保一体化」の政策に関しても学習していきます。保育士や幼稚園教諭の資格・免許に関しても、制度変更が始まろうとしています。またの「幼保一元化」や認定こども園の問題などについても学びます。今後の子ども・子育て政策の動向に関しても学ぶ予定です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・待機児童をはじめ、さまざまな「保育問題」を取り上げて、皆さんと考えていきたいです。 			
方法、授業計画等：			
<p>○ゼミでは、担当教員のミニ・レクチャーとグループあるいは個人で、テーマを決めて、「研究」していきます。自分自身のテーマや問題関心をしっかりと、志望（エントリーシート）では書いてください。</p> <p>○毎回、あらかじめスケジュールを決めて、順番に学んだり調べたりした内容をプレゼンテーション（発表）します。学ぶ意欲とやる気のある人は、ぜひ来てください。</p> <p>○認定こども園や保育園、子育て支援センターにテーマを定めて調査研究や見学も予定しています。</p> <p>○毎年、夏休みにゼミ合宿を予定しています。（今から合宿代貯めておいてください。） （*ちなみに2012年度、2013年度は、夏合宿を含めて、認可共同保育所、子育て支援センター、認定こども園、夜間保育所などに見学・調査に行きました。）</p> <p>○3年生の後期からそろそろ、本格的には4年生になって、卒業研究に取り組みます。個人でテーマを決めて、専門演習Ⅱ論文（＝卒業論文）として執筆します。（分量は400字の原稿用紙50枚ぐらい＝最低1万字、標準2万字です。）（*2014年度のゼミでは、3年生と4年生の交流も考えています。）</p> <p>○4年生の専門演習Ⅱでは、全員、卒業研究が完成するように頑張ります。後輩のゼミ生に発表会をします。可能であれば、製本して学習成果を残します。</p> <p>○テキストは、新年度のゼミの最初に相談して決めます。</p>			
担当教員からのメッセージ			
上に併せて書きました。			